

生活文化常任委員会行政視察概要

令和元年8月1日（木）
於 鎌倉市議会 応接室
午前9時50分～11時30分

1 調査の概要・説明…………… 鎌倉市ごみ減量対策課長 ごみ減量対策係職員



「かまくらプラごみゼロ宣言について」

当市からの調査事項に基づき、かまくらプラごみゼロ宣言について担当者より説明を受けた。

鎌倉市では、環境負荷の少ない循環型社会を実現するため、市民、事業者、行政が連携・協同して3Rを推進し、廃棄物の焼却量や埋め立てによる最終処分量を限りなくゼロに近づける「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指している。

これを掲げた経緯は、老朽化した焼却炉の建て替えの議論に際して、市民からのごみ処理施設建設反対意見などもあったことから、徹底的にごみ排出量を削減することで、隣接市にある焼却施設にごみの処理を受け入れてもらい、鎌倉には焼却施設を設置せずに広域的かつ効率的なごみ処理の実現を目指したことにある。

こうした徹底的なごみ削減、再資源化の取り組みが奏功し、ごみ焼却量は約30年間で42,629トン減少、リサイクル率も全国平均が20%前後のところ50%超、また取り組みが評価され、2018年6月にはSDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の選定も受けている。

そんな折、2018年夏に鎌倉市の由比ガ浜にくじらの赤ちゃんの死体が打ち上げられ、直接の死因ではないと結論づけられたものの、お腹の中から

ビニール片が摘出され、海洋のプラスチック汚染が問題視された。同年9月には神奈川県が「かながわプラごみゼロ宣言」を行ったことに連動し、鎌倉市議会で「クジラの赤ちゃんからのメッセージを受け止め、SDGsの目標を反映させる取組みを求める決議」が採択され、同年10月1日に「かまくらプラごみゼロ宣言」を行うに至った。

この宣言を受け、具体的な数値目標は掲げていないものの、まずは市民への啓発、市役所庁内の取組みからプラスチックごみゼロに向けた取組みを行っている。

市民への啓発としては、マイバック・マイボトルの街頭啓発、リユース食器利用費補助金交付金制度の創設、市内事業所への個別訪問と分別・レジ袋削減・容器包装の減容化のお願いなどを行っている。

市役所庁内の取組みとしては、マイバック・マイボトルの徹底、各種会議でのペットボトル飲料の提供廃止、昼食買い出し時のマイバック利用の徹底、ペットボトル自動販売機からマイカップ型自動販売機への転換、庁内各所での給茶機の設置、ペットボトル飲料の持ち込み自粛徹底などの取組みを行っている。

また、事業者と協同した取組みとして、パタゴニア鎌倉と協力したイベントの実施、店舗でマイバックを貸し出し、次の機会に返却してもらうことでマイバックを循環させ、その利用を促進する「旅するマイバック」などの取組みを行っている。

今後の取組み予定としては、市内に1,000社ほどある企業に個別に訪問し、プラスチックの代替品への転換をお願いする、神奈川県と協力して公共のウォーターサーバーを設置する、環境教育を一層推進するなど、市民、事業者、行政が連携した取組みを推進し、プラごみゼロを目指し、ゼロ・ウェイストの実現と、SDGsの目標達成に向けて取組みを進めていく。

2 主な質疑応答

問 観光客や外国人にごみ出しのルールを理解してもらうための工夫は。

答 観光客に対しては、お店が販売するときに説明をしてもらっている。また公共のごみ箱は設置せず、買った店舗でのごみの引き取りや持ち帰りをお願いしている。

外国人に対しては、英語版の冊子を作成し、転入時に細かく説明を行っている。15世帯ごとにクリーンステーションを設置しているが、トラブルなどは特に聞いていない。

問 ごみの持ち去りなどに対してどのように対応しているか。

答 持ち去りが認められる場合は、都度指導を行っている。鎌倉市では、28品の細かい分別収集を行っているため、換金しやすく、持ち去りの誘因となりやすいため、対策が課題であると認識している。

問 海岸のごみ対策はどのように行っているか。

答 毎年、近隣住民や県と連携してビーチクリーンキャンペーンを実施している。また、今年は、海の家などで構成する海水浴場の団体がプラごみを出さない宣言をして、協力をしてきている。

また、海水浴場のマナー条例を制定しており、警備員が巡回して、たばこ、飲酒、入れ墨、音楽を取り締まるほか、ごみがあれば拾っており、ごみ廃棄の呼び水とならないようにしている。

問 有料ごみ袋の価格設定は。

答 1リットル2円、5リットル10円、40リットル80円で設定当初から据え置き価格。鎌倉市では、有料化により削減したごみの量がもとに戻るリバウンド現象は認められないので、この価格のまま据え置きたいと考えている。

問 事業者がプラごみを減らす取り組みを行ってもらうためのインセンティブ策は何か考えているのか。

答 現在市内の商工部門と相談しながら、補助メニューの設定など何等かのインセンティブ策を検討している。鎌倉市には、本社機能がなく、決定権のない事業所も多いが、鎌倉限りで決定権のある事業所については、脱プラ製品へ転換してもらえよう働きかけを行っている。

問 学校での環境出前講座は、どの程度の規模で実施しているのか。

答 全校ではなく、希望した学校に対して実施している。学校や先生によって温度差が大きく、教育委員会との連携を強化することが課題と考えている。

プラごみ削減と食品ロスの削減の2つを大きなテーマに設定して、生徒に教えているところだ。

問 認知症やひとり暮らしの高齢者に対するごみ収集への配慮はどのように行っているか。

答 包括支援センターで時間を借りて、ごみの分別、収集について説明を行っている。自分でごみを出すことが難しくなった場合は、対象者の安否確認を兼ねて戸別に職員がごみを回収するふれあい収集を実施しており、現在500件程度の件数となっている。

今後は、対象者を精神疾患を有する方へ拡大する予定である。

問 リサイクルやごみ減量の取り組みが全国の中でも非常に進んでいる印象を受けるが、取り組みを先導した人や、特別な理由が何かあるのか。

答 次期ごみ焼却施設の建設の検討の中で、新たな焼却炉は設置せず、隣接市に受け入れてもらうため、ごみの減量を徹底的に減らすことを掲げて取り組みを進めてきたということが一番大きい理由。どうすればごみを減らせるかを常に考えて取り組んできた結果だと考えている。

民間の技術革新も著しく、ゼロウェイストも夢ではないと思えるようになってきた。先進的な事例として、香川県の観音寺市、三豊市などが徹底したごみの減量を進めており、それを参考にした。

問 鎌倉市のごみを受け入れることになる逗子市からどのような反応があるか。

答 逗子市も含めて近隣の2市1町でゼロウェイストの理念を共有しており、鎌倉市からのごみの受け入れも含めて理解してもらっている。現在、協力して実施計画を作成しているところだ。

問 リユース食器は、においや衛生面で抵抗を感じる方もいると思われるが、リユース食器について市民はどのような反応を示しているか。

答 リユース食器は、屋外の屋台などにおいが気にならない場面や食材がある一方、高級料理などそれが気になる場面もある。

リユース食器の普及はまだ十分ではないと考えているが、そもそもリユース食器の存在を知らないのか、知った上で使いにくいと考えているのかを調査し、分析しながら進めていきたい。

問 大型生ごみ処理機の補助制度の詳細について教えてほしい。

答 病院やスーパーなどにおいてもらったが、故障があり、修理費もかかるなどのコスト的な問題もあり、補助件数が伸びていないという現状がある。

補助は、設置費用の3分の1で1年間で100万円を上限としている。

以上